

中国仏教と民衆

—歳時記にあらわれた仏教 (一)

永井政之

はじめに

〔続道藏〕に収録される「玉匣記」一巻は、その流布本が石井昌子氏によつて紹介されるよう〔道教の神々〕1道教所収、中國民衆が祀る神々の誕生日を一覧表化したものである。その撰者を晋の許遜に帰するという荒唐無稽さはともかく、注意すべきは、そこにさまざま仏菩薩が記される点であろう。

まず「玉匣記」に記される当該の部分を抽出すると次のようになる。

| | | |
|----|---------------------------|-------------|
| 1月 | 1日 弥勒仏聖誕 | 8日 定光仏聖誕 |
| 2月 | 8日 累迦文仏出家。此日念經一卷。比常日千万功德。 | 19日 觀音菩薩聖誕 |
| | 19日 観音菩薩聖誕 | 21日 普庵祖師聖誕 |
| | 22日 燃灯仏聖誕 | 24日 竜樹王菩薩聖誕 |
| | | 30日 地藏王菩薩聖誕 |

| | | |
|-----|-----|--|
| 9月 | 30日 | 琉璃光王仏聖誕 |
| 10月 | 5日 | 達摩祖師聖誕 |
| 8日 | 11月 | 涅槃。此日放生一個。比常日放生十千万功德。此日作一罪業。比常日作十千万罪業。 |
| 12月 | 17日 | 阿弥陀仏聖誕 |
| 1日 | 12月 | 念經一卷。比常日念經。勝如十千万功德。 |
| 8日 | 1日 | 釈迦仏成仏。念經一卷。比常日念經。勝如十千万功德。 |
| 29日 | 8日 | 華嚴菩薩聖誕 |
| | 12月 | 凡遇聖誕之日。或斎僧。或施錢。或看經。或念佛。比常日有十万功德。 |

(道藏六〇一三一七a)

道藏本の内容と、流布本のそれに、若干の違いのあることは、すでに石井氏の指摘されたとおりである。誕日制定の由来などさまざまな疑問もあるが、ともかく特定の日に、特定の道教神や仏菩薩を祀るというのは「法師選択記」にも記されるから、「王匣記」独特的の立場ではない。つまり右のような説は、近世の中國民衆にとっては、日常のものとして受容

されていたにちがいない。彼らは機会あるごとに善業を積むことを心構け、それによる福果を期待したのである。

このような道教經典は、中國の民衆の間で、仏教がどのような型で受容されたかを知るための好箇の存在と言えよう。

ちなみに筆者は、かつて南宋代の禪宗叢林の行事と、中國の民間風俗との関係について試論を発表したことがある（「南宋禪林と中國の社會風俗」〔一九四〕曹洞宗研究紀要一三〔一六〕）。その結果、いかに超俗の集団たるべき禪宗の寺院であっても、南宋という、強力な国家体制に組み込まれると、もはや好むと好まざるとにかくわらず、社会との関係——特に筆者の注目したのは風俗であつたが——を無視しえなかつたこと、そして多くの場合、師家はそれらの風俗習慣をはなから無視することなく、いかに換骨奪胎して禪の立場から評価を加えるかに苦惱したかが、隕氣ながらも判明したように思う。さらに筆者は、中国禪に参じた道元禪師の立場にも触れた。道元禪師は、極めて敏感に、南宋の禪の持つ中国的部分を嗅ぎわける。禪の、いわばエッセンスのみを取り出したと言つてもよい。

考えてみれば、それは日本人たる道元禪師だからなしえたことである。中国の禪者は、禪者として生きる以前に、中国人である。師家が、いかに禪にとりついた中国的部分を峻別しようとしても、実は禪それ自体が、すでに中国的要素を十

二分に持つ。達磨の伝えたとされる禪は、中国の大地で育くまれ、そして開花したのである。

インドの禪が、中国で開花するために、それなりの変容を余儀なくされることは、異文化の移植として当然と言えよう。

話が若干、横道にそれた感があるが、いずれにしても、仏教が中国に定着するためには、さまざま形での変容があった。先に挙げた「玉匣記」に記された仏菩薩の聖誕が、道仏混淆の結果であるのは言うまでもなく、それは、まさに民衆レベルでの仏教の姿と言える。

この小論は、かつての拙稿が、中国の社会が叢林に与えた影響を考えたのに対し、逆に叢林——ここでは広く仏教全体を視野に入れた——が、いかに中国社会に受容されたかを、歳時記を手がかりに考えてみようとするものである。

前述するように「歳時記」の成立にかかわった人々は、ほとんどの場合、知識人ではあっても仏教信者ではない。彼らは、自分の属する社会の中で、毎日、どのような行事(時令)が行われ、それが、どのような理由で、どのような起源を持つかに关心を寄せる。その中には、単に依った資料に収録されているからというだけのものもあるが、いずれにしても、収録された意味は小さいとは言えず、また彼らは大むね儒仏道の三教の中で、ほぼ中立の立場をとったものと考えてよい

のではないか。

ところで、歳時記ということになれば、「呂氏春秋」(十二紀)と酷似する内容を持つ「礼記」(月令)を真先に考える必要があるが、以後の歳時記への影響は当然としても、成立が前漢ということになれば、仏教伝来以前のこととして、当面、問題とする必要はないであろう。

かくして、焦点は仏教伝来以後に成立した歳時記ということになるが、それでも問題がないわけではない。資料の散逸はもとより、地域的限定もある。特定した歳時記に収録されたからといって、それが中国全土に及んでいたか否かを決定するには、より広い視野からの傍証が必要となる。今回は、筆者の卑力の故をもって、歳時記の全体に目を通すことができなかつたし、まして地方志や小説にまでは至らなかつた。いずれ追補する機会もあろうから、ここでは小論を、いわば作業の中間報告と位置付けるものとしよう。

依拠した資料について

本論稿をなすに当つては、次のような資料に依拠した。まず、すでに散逸したとされる

千金月令 撰者不詳なるも京兆の人。六～七世紀。

金谷園記 唐、李邕撰 七世紀。
四時宝鏡 撰者不詳なるも唐中期以後。

養生月覧 南宋、周守忠撰。

については、守屋美都雄「中国古歳時記の研究」(昭和三八年、帝国書院)の成果によつた。付記される頁数は、右の資料の場合、守屋氏・同書の頁数である。

次に、数多い歳時記のうち、

四民月令 一卷 漢、崔寔撰。(民国二一年刊、怡蘭堂叢書本)

錦帶書 一卷 梁、昭明太子撰。(清、嘉慶刊、学津討原本)

玉燭宝典 一二巻 隋、杜台卿撰。(前田家旧蔵、尊經閣文庫本)

歲華紀麗 四卷 唐、韓鄂撰。(明、崇禎刊、津逮秘書本)

四時纂要 五卷 唐、韓鄂撰。(明、万曆一八年刊、朝鮮慶尚左兵、當刊本)

歲時広記 四卷 宋、陳元靚撰。(清、道光六年刊、学海類編本)

歲時広記 四〇巻 宋、陳元靚撰。(清、光緒刊、十万巻樓叢書本)

乾淳歲時記 一卷 宋、周密撰。(清、順治刊、重較説郛本)

月令七十二候集解 一卷 元、吳澄撰。(清、道光六年刊、学海類編本)

月令採奇 四巻 明、李一楫撰。(明、万曆四七年刊、内閣文庫蔵本)

歲序總考全集 七巻 明、陳三謨撰。(明、万曆二三年刊、内閣文庫蔵本)

日涉編 一二巻 明、陳培撰。(明、万曆三九年刊、徐養量刊本)

古今類伝 四巻 清、董穀士・董炳文同撰。(清、康熙三年刊、未学齋刊本)

七十二候考 一巻 清、曹仁虎撰。(清、嘉慶刊、芸海珠塵本)

月令粹編 二四巻 図説 一巻 清、秦嘉謨撰。(清、嘉慶一七年刊、琳琅仙館本)

唐月令統考 一巻 唐月令注統補遺 一巻 清、茆泮休撰、成蓉鏡増訂。(清、光緒刊、鶴壽堂叢書本)

新增月日紀古 一二巻 清、蕭智漢撰。(清、道光一四年刊、聽濤山房本)

秦中歲時記 一巻 唐、李淖撰。(清、順治刊、重較説郛本)

輦下歲時記 一巻 唐、闕名撰。(清、順治刊、重較説郛本)

賞心樂事 一巻 宋、張鑑撰。(清、道光一六年刊、学海類編本)

熙朝樂事、一卷 明、田汝成撰。（明、万曆刊、碑乘本）

杭俗遺風 一卷 付錄 一卷 清、范祖述撰。（清、同治六年刊、福州王氏刊本）

清嘉錄 一二卷 清、顧祿撰。（清、道光一〇年刊本。和刻本漢籍隨筆集一一所收）

によつた。また北平（燕京・北京）については、

天台風俗志 一卷 清、闕名撰。（小方壺齋輿地叢鈔本）

荆楚歲時記 一卷 梁、宗懔撰。（明、万曆刊、寶顏堂秘笈本）

があつて、一見して北京の習俗が判明するが、本論では参考するにとどめ、

については、「歲時習俗資料彙編」（三〇冊、民国五九年、芸文印書館）のうちに収録されて極めて便利である。（）の中は、右「彙編」の収録底本であり、小論も多くこれに依つた。なお「荆楚歲時記」は、守屋氏等によるその訳注本があり（平凡社、東洋文庫）、理解を助ける。

さらに「彙編」には未収録であるが、北宋代の開封をめぐる「東京夢華錄」、南宋代の杭州をめぐる「夢梁錄」がある。特に前者については近年、入矢義高・梅原郁両氏による訳注（岩波書店、昭和五八年）の労作が刊行されている。

従つてここでは、

東京夢華錄 一〇卷 宋、吳自牧撰。（元刊、静嘉堂文庫蔵。入矢・梅原訳注「東京夢華錄」所收）

尚、資料の掲載にあたつて、原典の割注は△▽で示し、（）はその出典等を記した。またここでは、総花的にその日の行事を収録するに主眼を置いたため、やむおえず「云々」の形で略したもの除去しては、内容の重複したものも少くない。

夢梁錄 一〇卷 宋、吳自牧撰。（清、嘉慶刊、学津討原

本。百部叢書集成所收）

を利用した。さらに清代の蘇州については、和刻本もある、

中国仏教と民衆（永井）

的としているため、それらについては別の機会に述べること
としたい。

1月1日

（同右、一四一七九）
安福塔。歲華紀麗譜。正月元旦。郡人持小綵幡。遊安寺塔黏
之。盈柱若鱗。次然以為厭禳。

化青羊。法苑珠林。唐長安市里。每歲元日已後。遙飲食相邀。

号為伝坐。東市筆生趙大。次當設之。有客先到。見碓上有童
女。青衫白帽。以索繫頸。属于碓柱。泣謂客曰。我主人女也。
往年未死時。盜父母錢。欲買脂粉。未及而死。其錢今在厨舍
壁中。然我未用。既以盜之。坐此得罪。今當償命。言畢化為
青羊白頭。客驚告主人。主人問其形貌。乃是小女。死已二年。
果厨壁得錢。於是送羊。僧寺闔門。不復食肉焉。

（歲時廣記7、四一二二二）

是日。弥勒尊仏誕。又藏經云。是大仏会

（月令粹編4、一六一一六四）

有胡僧正旦行乞。王勣覺。僧神彩邀入其家。胡僧謂勣曰。君
有寶鏡。可得見耶。勣曰。何以知之。僧曰。檀越宅上。每日
有碧光。此寶鏡氣也。勣以鏡出之。僧跪捧謂勣曰。此鏡有數
種靈相。若以金烟薰之。玉水洗之。復以金膏珠粉拭之。照見
臟肺。行之果驗。而胡僧不見。△大業九年異聞集△。

（日涉編1、一〇一一四六）

金烟玉水。異聞集。大業九年。有胡僧。云々。

（古今類傳1、一四一七七）

弥勒會。是日弥勒生。大仏会。

（月令粹編4、一六一一六四）

千盤会。帝京景物略。隆安寺僧翠林。自蜀來募金修仏殿。殿
後堂三楹。曰淨土社。堂列龕五十三。結僧徒念佛。歲元旦。
設果享仏。盤千數。名曰千盤会。

（同右、一六一一六五）
弥勒會。藏經。元日弥勒生。大仏会。

（同右、一六一一六七）

宋書。旧時歲朔。常設葦茭桃梗。碟鷄。於宮及百寺門。以禳
惡氣。

（月日紀古1、一九一一〇一）

范成大。丙申元日。安福寺礼塔。士女燃香挂幡。以禳兵火灾、
云々。

（同右、一九一一七四）

正月元旦。（中略）燒香東嶽廟。賽放炮仗。紙且寸。東之琉璃
廠店。西之白塔寺。壳琉璃瓶。

（帝京景物略2、三六）

正月朔日。謂之元旦。（中略）不論貧富。遊玩琳宮梵宇。竟日
不絕。

（夢梁錄1、一a）

拜年。男女以次拜家長。（中略）琳宮梵宇。亦交相賀歲。或粘

紅紙袋于門。以按帖署。曰接福。或曰代儻。

（清嘉錄¹、一九九^a）

新年。諸叢林各建歲醮。士女游玩琳宮梵宇。或燒香答願。自此翩翩徵逐。無論遠近。隨意所之。（中略）案。馮慕岡月令廣義。元時。元日。于長春宮建醮。歲以為例。范志。歲首即會於仏寺。謂之歲餓。士女闌咽。殆無行路。長元志。皆載元旦。仏寺燒香禮年餓。云々。

（同右、二〇一^b）

年節酒。元旦後。戚友遞相邀飲。至十五日而止。俗稱年節酒。（中略）案。宋道世法苑珠林。唐長安風俗。每至元旦以後。遞飲酒相邀迎。号伝坐酒。云々。

（同右、二〇五^a）

正月元日。郡人曉持小綵幡。遊安福寺塔。粘之盈柱。若鱗火然。以為厭禳懲。咸平之亂也。塔上燃燈梵唄交作。僧徒駢集。

太守請塔前張宴。晚登塔眺望焉。

（歲華紀麗譜、二）

1月2日

宝勝仏生。△仏書▽。

（日涉編¹、一〇一一五三）

送茶。歲華紀麗譜。正月二日。太守出東郊。早宴移忠寺。晚宴大慈寺。宴罷妓以新詞送茶。自宋公祁始。蓋臨邛周之

寶勝仏生。藏經。正月二日寶勝仏生。

（同右、一六一一六九）

歲華紀麗譜。正月二日。街坊點燈張樂。昼夜喧鬧。以昭覺寺為最。

（月日紀古¹中、一九一二二〇）

述異記。符堅既為姚萇所殺。於新平仏寺中。後寺主摩訶蘭常夢。堅曰。可為吾所作宮。既而寺左右民家。死疫相繼。巫者常見。符堅怒曰。吾不宮。將盡殺。新平民因改寺為廟。遂無復災疾。每年正月二日民競祀。以太牢新平寺。今符家神也。

（同右、一九一二三一）

仏書。正月二日。寶勝仏生。

（同右、一九一二二四）

大遼使人。朝見訖翌日。詣大相國寺燒香。

（東京夢華錄⁹、三九二^b）

翌日。至明慶。靈隱等寺燒香。

（夢梁錄¹、二^b）

二日。出東郊。早宴移忠寺。△旧名牌婁院▽。晚宴大慈寺。

清獻公記云。宴罷妓以新詞送茶。自宋公祁始。蓋臨邛周之純。善為歌詞。嘗作茶詞。授妓首度之。以奉公。後因之。

（歲華紀麗譜、二）

1月3日

繞塔。帝京景物略。旦至三日。男女皆於白塔寺繞塔。

(月令粹編3、一六一一二七)

旦至三日。男女于白塔寺繞塔。

(帝京景物略2、三六)

(同右、一九一二四三)

歲時元旦拜年。燒阡張。△各家祖先。俱用三牲熟食。貨草細剪者為阡張。供其前。俟三日後。焚而徹之。惟仏前則供養果麪。阡張至元宵罷。乃焚▽。

(宛署雜記、上、一六七)

大慈生。仏書。△仏書▽。

(日涉編1、一〇一一六一)

1月5日

大慈生。仏書。是日大慈仏生。

(古今類伝1、一四一九〇)

1月4日

癸辛雜識。四明延壽寺在城大刹也。三十年前。僧良月溪者為知客。一夕夢本寺所奉四明尊者。告之曰。三十年後。當使瓦礫化為黃金。適符吉夢。至明年己丑正月初四日。乃四明尊者忌辰作會。次日戴覺民家火作延燎。寺中一椽不留。其應如此。先是一月前。有汪氏子名信道者夢。祖宗云。火災當起於汝家。吾力告免於神。今已得一同姓名者代矣。及火作乃起於戴氏。闔人汪信之家。僅有一字之異。所毀者幾万家。凡壬午年火不及者。皆不得免。其新旧界截然。右有所司者。

(月日紀古1中、一九一二四二)

大慈生。仏書。

(月令粹編4、一〇一一七三)

朝野雜記。六年正月五日。以北使來賀正旦。當宴紫宸殿。會左相陳正獻公之從兄。為浮屠者死。前一日計至。陳公以狀申尚書省。乞依條式仮。又入劄子。乞免赴大宴。御筆批既而右相虞雍公。為陳公言。先太師之喪。僧兄既以浮屠氏之教絕服矣。今反為之報。又廢朝廷大朝會之禮。其可乎。若情有所不及者。免。祇可私家移服。至祭不作歌樂。少間不免奏取聖裁。虞公具奏上。乃諭陳公令赴宴。

續伝灯錄。仏印名了元。字覺老。浮梁林氏子。幼稱神童。長慕空宗遂薙剃。初師寶寺沙門日用試法華。受具後。遊廬山謁開先暹嗣之。住雲居四十年。神宗賜高麗磨衲金鉢。以旌師德。後於元符元年正月四日。一笑而逝。旧志。年十七。謁丹通訥

初六日。定光仏誕于江州白花巖。

(月令採奇1、八一三七)

禪師。訥以書記。璉應詔以師補之。二十八。住江州承天為開先嗣。繼遷淮之斗方。廬山之開先。潤州之金山。焦山。袁州之大仰。廬山之帰宗。

断岸禪師詣法塔。西指空地。更好立箇無縫塔。其晚与一禪

者。談笑至夜分。乃曰。老僧明日天台去。禪者曰。某隨師去。

師曰。你走馬趕也我不及。跏趺而化。△断岸禪師。俗姓楊氏。

生于宋理宗景定癸亥年。化之日。白昼晦暝。雷砰雨射。葬之

日。雪花繽紛。林木縞素。史纂庄編▽。

(日涉編1、一〇一—六三)

江州武平南安白花岩。定光仏生。△仏書▽。

(同右、一〇一—六四)

天台去。史纂。断岸禪師、云々。

(古今類伝1、一四一九〇)

白花巖。仏書。江州武平南安白花巖。定光仏正月初六日生。

(月令粹編4、一六一一七四)

1月8日

正月七日。人使朝辭出門。灯山上綵。(中略)綵山左右。以綵
結文殊普賢。跨獅子白象。各於手指出水五道。其手搖動。用
轆轤紋水。上燈山尖高處。木櫃貯之。逐時放下。

(東京夢華錄6、三九三a)

湖壠雜記。武林仙仏之肉有二二丁野鶴一。長耳和尚也。和尚
名行修。耳長數寸。上過於頂下可結願。吳越王方飯僧。行修
携瓢適至。永明禪師告之曰。此長耳和尚。定光古仏應身也。
王趣駕禮之。和尚笑曰。永明饒舌。語畢跏趺而坐化。遂漆其
身。藏於法相寺中。每正月六日請出。為郡人瞻禮。人至是日。
於寺前賭放。爆竹声伝空谷。衆響爭流。積紙盈寸。求嗣者。

於仏前競扳紅燭。婦人潛來摸仏下体。以為宜男。此俗之最可
笑者。歷年不改。

(月日紀古1中、一九一二五九)

1月9日

仏書。江州武平南安白花巖、云々。

(同右、一九一二六一)

(同右、一九一二六二)

晋李充。正月七日登剡西寺。賦詩云。命駕升西山。寓目眺原
疇。

(歲時廣記9、五一—七六)

初八日。江東聖誕。南無華嚴衆意甘露王。及觀世音菩薩示現。
事物紀原。正月八日。新進士呂蒙正等。宴開寶寺。賜御製詩。
以寵之。勅下之日。醵錢於曲江。為聞喜之宴。近世多於名園
仏廟。至是官為供帳。八年四月朔。賜宴瓊林苑為定制。

(月日紀古1中、一九一三〇一)

雜記。正月八日。南無華嚴衆意甘露苦王。觀世音菩薩示現。
(同右、一九一三〇五)

史纂。断岸禪師。正月六日、云々。

潭州瀉山僧。年十五出家。遊江西參百丈。丈一見許之。丈曰。汝撥爐中有火否。師撥之曰。無火。丈躬起撥得少火。拳以示之曰。汝道無。這箇聾。師由是發悟。居湖南瀉山。敷揚宗教四十余年。唐宣帝大中七年正月九日告寂。楚禪宗志▽。

（日涉編1、一〇一一七七）

1月10日

大円。楚禪宗志。靈祐禪師。年十五出遊、云々。

（古今類伝1、一四一九五）

惠洪。正月初十日。追和帛道猷一首并序、云々。

（月日紀古1中、一九一三二四）

1月14日

楚禪宗志。靈祐禪師。年十五出遊、云々。

（月日紀古1中、一九一三二二）

心要經。若作增益法者。行者以面向東跏趺而坐。像面向西。

（日涉編1、一〇一一九一）

徑山大慧宗杲禪師。謂衆僧曰。上堂正月十四十五。双徑推鑼打鼓。要識祖意西來。看取村歌社舞。△史纂左編▽。

於准提像前。置鏡擅觀。准提作黃色。所獻華果飲食。并自身衣服等。皆作黃色。塗香用白檀。加少鬱金。燒白檀香。然芝蔬油灯。以喜悅心相應。從正月九日出時起首。至十五日滿。每日准前三時澡浴換衣。至日滿時。准前斷食。及三白食。念誦如前。

（同右、一九一三一二）

史纂。徑山大慧宗杲禪師上堂曰、云々。

（日令粹編4、一六一一八五）

千歲和尚。名寶在。魏晉間自云。六百七十三。周威烈王卯生。左手握拳。有珠在掌中。因以為名。顯慶二年正旦。手捏一像。至九日乃成。與其貌無異。云。吾誓住世千歲。自來支那忽四百歲。今已過七十有二年。說偈而化。出武林梵志。

（同右、一九一三一二）

觀燈故事。涅槃經云。如來闍維訖。收舍利。罿置金床上。天人散華奏樂。繞城步步。燃燈滿十三里。

（歲華紀麗1、三一二八）

齋天。九日為玉皇誕辰。元妙觀道侶。設道場於彌羅寶閣。名

曰齋天。（中略）案。（中略）昭文縣志。九日為天日。興福寺僧齋天。邑人多早起往觀。

（清嘉錄1、二〇七a）

衆雲集。觀仏舍利放光雨花。

(同右、三一二八)

御賜宴。廬陵居士集。嘉祐八年上元夜。賜中書枢密院。御筵于相國寺羅漢院。云々。

(同右、五一二九八)

漢帝之建白馬。漢武帝時。摩騰竺法蘭。以白馬駄經至帝。是日設大祭。其夜以香火焚。积道二教。道經煨燼。佛教宛然。帝遂建白馬寺。

(同右、五一三一〇)

神灯仏火。^(マヤ)崔液正月望夜遊詩。神灯仏火百輪張。刻像圖形七寶裝。

(同右、三一二八)

州郡燈。歲時雜記。燈夕外郡。唯杭蘇溫華侈尤甚。(中略)車輿瓶鉢。屏風帳幔。挂衣仏塔。転藏鬼子母等像。皆以琉璃為之。云々。

(同右、五一三一五)

上元。(中略)是則唐以前歲。不常設。燒燈故事。多出仏書。

(同右、三一二九)

寺院燈。東京夢華錄。元夕相國寺大殿。云々。(以下、1月16日ノ条参照)

(同右、五一三一九)

勅燃燈。僧史略。太平興國六年。勅燃燈放夜為著令。

(同右、五一二八六)

大明燈。僧史略。漢法本伝。西域十二月三十日。乃中國正月之望。謂之大神農變月。漢明帝令燒燈。以表仏法大明。

(同右、五一三二一)

請燃燈。唐書嚴挺之伝。睿宗先天二年正月望夜。胡人婆陁。請於玄武樓外。燃百千燈供仏。縱都民出觀。

(同右、五一二八六)

繞城燈。涅槃經。正月十五日。如來閣維訖。云々。

(同右、五一三二一)

縛山棚。皇朝東京夢華錄。正月十五日元宵。(中略)正月七

日、云々(以下、1月7日ノ条参照)

(同右、五一二九四)

張神燈。崔液上元夜遊詩。云々。

(同右、五一三二一)

立棘盆。皇朝歲時記。闕下燈山前。為大樂場。編棘為垣。以

節觀者。謂之棘盆。山棚上棘盆中。皆以木為仙仏人物。車場之像。(中略)上乘平頭輦。從寺觀出。云々。

(同右、五一三二一)

打專僧。廣古今五行志。侯景為定州刺史日。有僧名阿專。師在州下。聞有會社斎。供嫁娶喪葬之席。或少年放鷹走狗。追

隨宴集之處。嘗在其間。鬪諍喧囂亦曲助朋黨。如此多年。後正月十五日。触他長幼。惡口聚罵。主人欲打殺之。市徒救解而去。明日捕覓見阿專。騎一破墻喜笑。捕者奮杖欲擲。前人復遮。阿專云。汝等何厭賤我。我捨汝去。以鞭擊墻口唱叱叱。

所騎之墻。忽然昇天。見者無不禮拜。須臾映雲而滅。經一年聞在長安。還如旧態。後不知所終。

（同右、五三六七）

摩喝陁國、僧徒俗衆雲集、云々。

（日涉編1、一〇一—一〇二）

舍利光。西域記。摩喝陀國、云々。

（右今類伝1、一四一—一〇二）

菩提葉燈。周必大省齋稿。報恩寺菩提葉燈最奇。必大有詩云。古寺看紅葉。蕃街試幻人。

（同右、一四一一〇二）

舍利瞿。涅槃經。如來闍維訖、云々。

（同右、一四一一〇二）

婆陀燈。舊唐書。先天二年元夕。西域僧婆陀。請燃百千燈。

睿宗御延禧門觀樂。經四日。

（月令粹編4、一六一一八八）

至広陵。寺觀陳設之盛。灯火之光照灼。基殿士女鮮麗。皆仰面曰。仙人見五色雲中。帝伶官奏。霓裳羽衣曲。數日広陵奏至。

（同右、一六一一九一）

錢燈會。歲華紀麗譜。上元節放燈。十四・十五・十六三日。皆早宴大慈寺。晚宴五門樓。又為錢燈會。蓋燈夕二都監戎服分巡。以察姦盜。既罷故作宴以勞焉。通判主之。

（同右、一六一一九七）

菩提葉燈。周必大省齋稿、云々。

（同右、一六一一九八）

舍利放光。西域記。摩喝陁國、云々。

（同右、一六一一九八）

天雨寶華。法苑珠林。漢永平十四年正月。五岳諸山道士願。與西僧比校弁真偽、云々。

（同右、一六一一九八）

舍利瞿。涅槃經。如來闍維訖、云々。

（同右、一六一一九八）

西域志。摩喝陁國、云々。

（月日紀古1下、二〇一三六八）

廣陵元夕。幽怪錄。開元十八年正月望日。帝謂葉法善。四方元夕。何處最麗。法善曰。無踰廣陵。帝曰。何術以觀之。俄而虹橋起於殿前。帝步而上。太真高力士及樂官數人從。俄頃車馬塞路。

(同右、二〇一三六八)

幽怪錄、開元十八年正月望日、云々。

(同右、二〇一三六八)

帰田錄。嘉祐八年上元夜。賜中書枢密院、云々。

(同右、二〇一三九二)

墨客揮犀。孫元規知杭州。擿姦發伏。号為神明。有僧。元夕市中然頂求化。以新寺宇左右施利山積。公出見立馬不行。瞰其情久之。入呼僧前。詰其姦狀。僧惶恐頓伏。

(同右、二〇一三九三)

章碣上元夜。建元寺觀燈。呈智通上人、云々。

(同右、二〇一四一五)

白居易。正月十五日夜。東林寺學禪。偶懷藍田楊主簿。因呈智禪師。新年三五東林夕、云々。

(同右、二〇一四一九)

無名氏題焚經台。按訛國紀云。漢明帝世。仏法初入中國。永平十四年正月十五日。大集白馬寺南門、云々。

(同右、二〇一四三一)

正月十五日元夕節。乃上元天官賜福之辰。昨汴京大内前。縛山棚對宣德樓。悉以綵結山棚上。皆畫群仙故事。左右以五色綵。結文殊普賢。跨獅子白象、云々。(以下、1月7日ノ条參照)

(夢梁錄1、三b)

石窟寺河洛記。武德元年正月十六日、云々。

(月令粹編4、一六一一〇〇)

三官素。上元中元下元日。為三官誕辰。俗以正七月朔至望日。嗜素者。謂之三官素。(中略)郡西七子山有三官行宮。枳氏奉香火。至日輿舫絡繹。香潮尤盛。

(清嘉錄1、二一二b)

上元節放燈。旧記稱。唐明皇。上元京師放燈。燈甚盛。葉法善奏曰。成都燈亦盛。遂引帝至成都。市酒十富春坊。此方外之言存而勿論。咸通十年正月二日。街坊點燈張樂。昼夜喧闐。蓋大中承平之餘風。由此言之。則唐時放燈。不獨上元也。蜀王孟昶。時間亦放燈。率無定日。宋開寶二年。命明年上元放燈三夜。自是歲以為常。十四·十五·十六三日。皆早宴大慈寺。晚宴五門樓。甲夜觀山棚變燈。其歛散之遲速。惟太守意也。如繁雜綺羅。街道灯火之盛。以昭覺寺為最。又為錢燈會。會始於張公詠。蓋燈夕二都監戎服。分巡以察姦盜。既罷故作宴。以勞焉。通判主之。就宣詔亭或涵虛亭。旧以十七日。今無定日。仍就府治。專以宴監司也。

(歲華紀麗譜、二)

1月16日

石窟寺。河洛記。唐武德元年正月十六、王世充与李密。戰於石窟寺。風雨夜寒。士卒凍死者萬計。充宵遁走河陽。

(古今類傳1、一四一一一)

宋史礼志。上元前後各一日。東華左右掖門。東西角樓城門大開。大客觀寺院悉起山棚。張樂陳燈。皇城雉堞徧設之。

（月日紀古1下、二〇一四五八）

河洛記。唐武德元年正月十六、云々。

（同右、二〇一四六〇）

夢華錄。正月十六日。相國寺之大殿前。設樂棚。諸軍作樂。

兩廊有詩牌灯云。天碧銀河欲下來。月華如水照樓台。并。火

樹銀花合。星橋鐵鎖開之詩。

（同右、二〇一四六四）

十六日。車駕不出。自進早鑄。訖登門。（中略）於是貴家車馬。自內前鱗切悉南去。遊相國寺。寺之大殿。前設樂棚。諸軍作樂。

兩廊有詩牌灯云。天碧銀河欲下來。月華如水照樓台。并。火樹銀花合。星橋鐵鎖開之詩。其燈以木牌為之。彫鏤成字。以紗絹覆之。於內密燃其燈。相次排定。亦可愛賞。資聖閣前。

安頓仏牙。設以水燈。皆係宰執戚里貴近。占設看位。最要鬧

九子母殿。及東西塔院。惠林智海寶梵。競陳燈燭。光彩爭華。

直至達旦。其餘宮觀寺院。皆放万姓燒香。如開寶景德大仏寺等處。皆有樂棚。作樂燃燈。惟禁宮觀寺院。不設燈燭矣。次則葆真宮。有玉桂玉簾窓隔燈。諸坊巷。馬行諸香鋪灯火出群。而又命僧道場。打花鼓弄椎鼓。遊人無不駐足。

（東京夢華錄6、三九四a）

祝長春。宋史禮志。建隆元年。請以二月十六日為長春節。正月十七日。於大相國寺道場。以祝壽。至日上寿退。百僚詣寺

行香。

（月令粹編4、一六一一〇二）

宋史禮志。建隆元年。群臣請以正月十七日、云々。

（月日紀古1下、二〇一四七一）

都城紀勝。城中太平興國伝法寺淨業會。每月十七日。則集男

士。十八日。集婦女入寺諷經聽法。歲終則建藥師會。七昼夜。

玉海。咸平三年正月十七日。車駕至北京幸大安寺紫微宮。

（同右、二〇一四七三）

都城紀勝。城中太平興國伝法寺淨業會。每月十七日。則集男

士。十八日。集婦女入寺諷經聽法。歲終則建藥師會。七昼夜。

惠洪。正月二十日偶書二首。春林院落曲欄東、云々。（中略）此生早衰坐世故、云々。

（月日紀古1下、二〇一四九八）

1月21日

陳徐陵孝義寺碑。天嘉三年正月二十一日。詔旨仰惟聖方被兆民。乃勅有司。改東成里。為孝義里、云々。

（月日紀古1下、二〇一五〇一）

1月17日

東坡將往岐亭。宿于团風。夢一僧破面流血。若有所訴。是日至岐亭。過一廟中。有羅漢像。左龍右虎。儀制甚古。而面為

人所壞。顧之惘然。宛如夢中所見。遂載以歸。完新而龕之。
設于安國寺。△元豐四年。楚通志▽。

1月23日

(日涉編1、一〇一一二二)

二十三日。聖壽寺前蚕市。張公詠始即寺為會。使民蚕農器。
太守先詣寺之。都安王祠奠獻。然後就宴。旧出万里橋。登染
俗園亭。今則早宴祥符寺。晚宴信相院。

1月24日

(歲華紀麗譜、三)

心要經云。若作降伏法者。行者。面向南蹲坐。左脚押右脚。
像面向北。於准提像前。安置鏡壇。觀准提作青色或黑色。著
青黑衣。自身衣服。亦皆青色。獻青色華。鳧華不香華。曼陀
羅華等。飲食用石榴。汁染作黑色或作青色。塗香用柏木。闍
伽用牛屎。以黑色花及芥子柏木塗香等。各取少分。置闍伽水。

燒安息香。燃芥子油灯。以忿怒心相應。從月二十四日午時或
夜半起首。至月盡日滿。每日澡浴斷食念誦法。准前行。

(月日紀古1下、二〇一五一九)

蘇軾。正月二十四日。與兒子過賴仙芝玉原秀才。僧曇穎。行
全道士何宗一。同游羅浮道院。及西禪精舍。過作詩和其韻、
云々。

(同右、二〇一五二二)

1月25日

(月日紀古1下、二〇一五三四)

(日涉編1、一〇一二三八)

(月令粹編4、一六一二二)

1月26日

建隆三年正月二十五日。幸大相國寺。移幸國子監。

(同右、二〇一五二五)

元豐元年閏正月二十五日。日本僧仲廻貢方物。

(同右、二〇一五二五)

東坡偶與數客過僧舍。東南野人家。雜花盛開。扣門求觀。主
人林氏姫出應。白髮青裙。少寡獨居三十年。坡感嘆之。作詩
以記。△長公外記▽。

叩門觀花。蘇軾詩序。正月二十六日、云々。
(月日紀古1下、二〇一五二二)

蘇東坡。正月二十六日。偶與數客、云々。

1月27日

釈道安。見有異僧。從窓出入。△安。姓魏氏。常山人。形甚陋。早失覆蔭。外兄孔氏撫之。七歲讀書。再覽能誦。十二出家。啓師所求經典。旦誦暮還。一一盡識。一字不差。寓襄陽宣法寺注經。乃誓曰。若所注不甚遠理。願見瑞相。是夕夢一

道人。頭白眉長。語安曰。君所注經殊合理。道人賓頭盧也。

後至秦建元二十一年正月二十七日。有異僧形亦陋甚。來寺寄宿講堂。直殿者夜見。異僧從窓而出入。安起禮之。安云。自惟罪深可度脫否。異僧云。可度。至某月某日。方可度耳。至期安無疾而卒。如其言。高僧伝▽。

(日涉編1、一〇一二三)

釈道安。高僧伝。釈道安。常山人。云々。

(古今類伝1、一四一二九)

異僧守宿。高僧伝。釈道安。常山人。云々。

(月令粹編4、一六一二二)

高僧伝。釈道安。常山人。云々。

(月日紀古1下、二〇一五四〇)

1月28日

二十八日。俗傳為保壽侯誕日。出笮橋門。即侯祠奠拜。次詣淨衆寺鄒國社丞相祠奠拜。畢事會食。晚宴大智院。

(歲華紀麗譜、三)

1月30日

羅倫。遊福山寺二首并序。福山旧名覆船山。唐懿宗易覆為福。宋祥符。玄船名福山。紫陽朱文公。蓋嘗遊焉。寺僧像而祀之。同年呂廷揚。來令新城。約余同遊。因正其位號。祀於大雄氏之後。室名曰崇正。時成化十年甲午正月晦日也。云々。
(月日紀古1下、二〇一五七二)
春
不住天。仏書。天運無常。以成四時。
(古今類伝1、一四一三二)
一白。伝灯錄。一年為一白。
(同右、一四一三二)
八万四千塔。宋書。阿育王寺塔。即鐵輪王仏滅後。一日一夜役鬼神。造八万四千塔。
(同右、一四一三三)
蛇童。廣陵志。東晉時。跋陀羅尊者訖經于天寧寺。忽雨青蛇出蓮池。化二童子。每旦灑掃焚香。入夜即去。訖畢亦不復見。
(同右、一四一三五)
浴蘭。伝灯錄。唐三藏浴蘭焚香。晨夕不倦五十年。
(同右、一四一三五)
投子寺。周必大春日。禪語屢題投子寺。仁風常滿皖公山。
(同右、一四一四三)
供仏蓮。南史齊晋安王子懋伝。年七歲時。母阮淑媛。嘗病危篤。請僧行道。有獻蓮花。供仏者。衆僧以銅器盛水漬其莖。

欲華不萎。子懋涕禮仏曰。若使阿姨因此和勝。願諸仏令華竟
斎不萎。七日斎畢。華更鮮紅。視覩中稍有根鬚。當世稱其孝
感。

(月令粹編2、一六一九〇)

香山居士。唐書白居易伝。暮節惑浮屠道尤甚。至經月不食葷。
称香山居士。嘗与胡杲・吉旼・鄭旼・劉真・盧真・張渾・狄
兼謨・盧貞燕集。人慕之繪。為九老図。

(同右、一六一九三)

月山。輿地紀勝。月山在安福縣西山。巔有石如月。遇晦夕即
明照曠。百余步有月山寺。

(同右、一六一九八)

七聖画。宣室志。雲光寺有七聖画。初有少年兄弟七人。至寺
閉室画之曰。七日慎勿啓門。至六日發其封。有七鵠飛去。西
北隅未畢。画工見之曰。神筆也。

(同右、一六一九八)

筆寶。成都古今記。西蜀聖壽寺僧楚安。妙画山水。須一旬以
來。方就一扇。收得其筆。謂之筆寶。

(同右、一六一九〇)

僧繇画。宣和画譜。閻立本嘗至荊州。視僧繇画曰。定虛得名
耳。明日又往曰。猶是近代佳手。明日又往曰。名下定無虛。
士坐臥觀之。留宿其下。十日不能去。

(同右、一六一一〇〇)

燃塔灯。冷然志。京師天寧寺塔。建于隋開皇末。規制特異。
上為扶闌。闌四周架鐵燈三層。凡三百六十盞。每月八日注油
燃之。

(同右、一六一一〇一)

仏心如月。法苑珠林。初發心如月新生。行道心如月五日。不
退轉心如月十日。一生補處心如月十四日。如來智慧如月十五
日。

(同右、一六一一〇二)

雨天三昧。清異錄。閩祀春余宴後。苑飛紅滿空。祀曰。弥陀
經云。雨天曼陀羅華。此景近似今日。觀化工之雨天三昧。宜
召六宮設三昧宴。

(月令粹編3、一六一一四)

羅漢條。湖湘故事。羅漢條。後洞有草蔓。結如帶。長丈余。
附木而生。相伝。謂之羅漢條。畢田詩云、云々。

(同右、一六一一六)

宝奎殿。玉海。慶歷二年正月辛未。詔以大相國寺。新修太宗
御書為宝奎殿。摹太宗御書。寺額於石上。飛白題之。命宰臣
呂巨簡撰記。章得象篆額。樞密使晏殊撰御飛白書記。

(同右、一六一一二七)

河陽橋。七修類稿。乾元三年正月。元帥奏於河陽陝東。大破
賊。百官表賀內云。頃見中書門下。稱河陽橋。前因河凌衝突
連艦偏斜。昨一軍吏。夜聞橋下鬧。見有神人云。我是毗沙門

天王。為國家正此橋柱。及平明時。橋忽正。

（同右、一六一一二八）

踏青。燕都遊覽志。大仏寺在西直門北三里。寺後有高阜積土鰐石。為之広袤幾二里。山上有真武祠。踏青士女。正月必先至其地。

（同右、一六一一二八）

淨土樹。一統志。西安府鄠縣。有淨土樹。俗伝。西域鳩摩羅什憩此。覆其屨土中生茲樹。二月開花如桃花。

（同右、一六一一三四）

仏齒。仏國記。仏齒常以三月中出之。未出十日。王莊校大象。使一人著王衣服。騎象上繫鼓唱言。菩薩從三阿僧祇劫。種種苦行。唱已王使夾道兩邊作菩薩。五百身已來。種種變現。或作須大挐。或作啖交。或作象王。或作鹿馬。如是形象皆彩画。莊校狀若生人。然後仏齒乃出。中道而行。隨路供養。到無畏精舍。仏道上道俗雲集。燒香燃燈。種種法事。昼夜不息。滿九十日。乃還城內精舍。

（同右、一六一一四〇）

乾蒸餅。長公外紀。東坡造一禪榻、云々。

（古今類傳1、一四一一二四）

馬道一禪師。跏趺入滅。諡大寂禪師。△道一容貌奇異。牛行虎視。引舌過鼻。足下有二輪文。唐玄宗開元中。習禪定于衡岳山中。遇讓和尚密受心印。貞元四年登建昌石門山。謂侍者曰。吾之朽質。當於來日帰茲地矣。院主問候。師曰。日面仏月面仏。二月一日跏趺入滅。出禪宗志。▽

（同右、一〇一二六七）

乾蒸餅。長公外紀。東坡造一禪榻、云々。

骨索。涅槃經。骨索秋千也。紀原云。正作秋千。為秋遷非也。本漢宮祝壽詞。

（同右、一六一一四三）

東坡志林。元豐七年二月一日。東坡居士与徐得之・參寥子。步白雪堂並柯池。入乾明寺觀竹林、云々。

立春之日。（中略）又為打毬鞦韆之戲。按。劉向別錄曰。寒食蹴鞠。黃帝所造。本兵勢也。或云。起於戰國。案鞠与毬同。

（月日紀古2上、一〇一六六三）

古人踢蹴以為戲也。古今芸術図云。鞦韆本北方山戎之戲。以習輕趨者。後中國女子學之。乃以綵繩懸木立架。土女炫服。坐立其上推引之。名曰鞦韆。楚俗亦謂之施鈎。涅槃經。謂之骨索。

（荆楚歲時記、三〇一一七）

2月1日

蘇東坡造一禪榻。作乾蒸餅百枚。自是日後盡絕人事。饑則食餅不飲湯水。不晤他物。細嚼以致津液。△長公外記▽。

（日涉編2、一〇一二六七）

建炎筆錄。二月初一日。御舟移泊溫州江心寺下。因賜名竈翔寺。有小軒東向。名浴日。皆御書題額。

(同右、二〇一六六六)

天禧四年二月癸未朔。詔滑州新建僧院。名福寧院。御製碑文寵之。

(月令粹編5、一六一二三七)

長公外紀。東坡造一禪榻。云々。

(同右、二〇一六七一)

蜀檮杌。永平二年二月朔。遊竈華禪院。召貫休坐。賜茶藥綵

段。仍令口誦近詩。時諸王貴戚皆賜坐。貫休欲諷。因作公子行曰。云々。

(同右、二〇一六七四)

售農用。四川記。同州以二月二日。與八日為市。四方村民畢集。應農所用。以至車檣木果樹器用雜物。皆至其值千緡萬緡者。郡守就子城之東北隅竈興寺前。立山棚設幄幕。樂以宴將吏。累日而罷。

(歲時廣記1、四一六八)

沙門玄奘到長安。入玄奘。俗姓陳。少聰敏有操行。修行于天竺。至貞觀十九年二月二日到長安。採求仏法。咸究根源。凡得經論六百五十七部。仏舍利像等甚多。太宗留經像于洪福寺。有瑞氣徘徊像上。南部新書▽。

小遊江。歲華紀麗譜。二月二日。踏青節。云々。

(月令粹編5、一六一二三七)

山棚帷幕。四川記。同州二月二日。為市村民畢集。云々。

(同右、一六一二三八)

瑞氣徘徊。禪宗錄。陳元奘。少聰敏。修行于天竺。云々。

(同右、一六一二三九)

墨莊漫錄。泗州普照寺僧伽塔。建炎戊申二月二日火災。華州

普照寺。亦以是日焚其塔。亦甚雄盛。可亟于泗上也。

(月日紀古2上、二〇一六八五)

歲華紀麗譜。二月二日出万里橋。云々。

(同右、二〇一六八八)

四川記。同州二月二日。為市民畢集。云々。

(同右、二〇一六九一)

禪宗錄。陳元奘。少聰敏。修行天竺。云々。

(同右、二〇一六九二)

山棚帷幕。四川記。同州是日。為市村民畢集。云々。

(古今類傳1、一四一二五)

瑞氣徘徊。禪宗錄。陳玄奘。少聰敏。修行于天竺。云々。

(同右、一四一二六)

二月二日。踏青節。初郡人遊賞。散在四郊。張公詠以為不若聚之為樂。乃以是日。出万里橋。為綵舫數十艘。與賓僚分乘

之。歌吹前導。号小游江。蓋指浣花為大游江也。士女駢集。

觀者如堵。晚宴於寶歷寺。公為詩有曰。春游千万家。美人顏如花。三三兩兩映花立。飄飄似欲乘煙霞。公銳心石腸。乃賦此麗詞哉。後以為故事。清獻公為記時。綵舫至增數倍。今不然矣。

2月3日

(歲華紀麗譜、三)

初五日辟支仏生。

(月令採奇1、八一七一)

元稹。華岳寺詩注云。貞元二十年正月二十五日。自洛之京。

二月三日。春社至華岳寺。憩齋師院。未逾月復徂東謁齋師。因題四韻。云々。

(月日紀古2上、二〇一七〇二)

元太祖。是日疾篤。医言脈已絕。皇后召耶律楚材問之。對曰。任使非人。壳官鬻爵。因繫非爵。古人一言。而善熒惑退舍。

請赦天下囚徒。后即欲行之。楚材曰。非君命不可。俄頃帝少蘇。入奏請肆赦。帝不能言。首肯之。是夜医者便脈復生。適宣讀赦書時也。翌日而瘳。△耶律楚材。通天文地理律曆術數。及祝老医卜之說。出元史▽。

(日涉編2、一〇一二七七)

洛陽伽藍記。平等寺、云々。

請肆赦。元史。太祖是日疾篤、云々。

(古今類傳1、一四一一二六)

佛經。二月五日辟支仏生。

(月日紀古2上、二〇一七一一)

百花成子。元稹。正月二十五日。自洛之京。是日、云々。

(同右、一四一一二七)

2月7日

2月4日

紹興三年二月四日。以高麗遣使入貢。詔葺法慧寺為同文館。既而不至。

(月日紀古2上、二〇一七〇六)

初七日。觀音示現。

(月令採奇¹、八一七二)

十二面。白衣經。南無七寶林中。一十二面觀世音菩薩示現。

(古今類傳¹、一四一一二九)

伝法正宗記。以二月七日入正三昧。八日明星出時廓然大悟。乃成等正覺。陞金剛座。

(月日紀古²上、二〇一七三四)

2月8日

仏大涅槃云。如旃檀林栴檀囬繞。如師子王師子囬繞。又云。稽首仏足百千万匝。今人以此月八日巡城。蓋其遺法矣。魏代踵前於此尤盛。其七日晚。所司預奏。早門城門。過半夜便内外俱赴。遍滿四埠。大涅槃又云。諸香木上懸五色幡。采微妙猶如天衣。種種名華。外書花字。以散。樹開四方。風神吹諸樹上。時非時。華散双樹間。法花經云。或以歡憶心歌唄頌仏德。又云。雨旃檀沈番纊紛。而亂墜如鳥飛空下。供養於諸仏衆寶妙。香爐燒無價之香。華嚴經云。雨天衆宝花。而芬芳如雪下。是日尊儀輦輿並出香火。竟路幡花列前寺。別僧尼讚唄隨後。此時花樹未甚開敷。去聖又遠。力非感降其花。道俗唯刻鏤錦綵為之。漢王符。為潛夫論已言。花綵之費。晉范汪集新野四居別伝云。家以剪仏華為葉其來。蓋又荆楚記云。謝靈運孫。名茲操者。為荊府諮議云。今世新花。並其祖靈運所制。八似是花樹之色。南北異俗。或不必同。囬繞乃是常事。八

日獨行者。當以仏云。劫後三月。吾當涅槃將欲滅度。涅槃時到。恋慕特深。菩薩處胎經云。仏以二月八日生。転法輪降魔涅槃。皆同此日。過去現在因果經亦云。仏以二月八日生。或復由此。

(玉燭寶典²、一一七二)

釈氏下生之日。迦文成道之時。八歲時記云。二月八日。釈氏八會之燈。故云。今二月八日平旦。執香花遶城一匝。謂之行城。見下注▽。遶城遊一匝之行。八本行經云。二月八日夜半。太子被馬當出。天使神牽馬足。出至王內。則行城中矣▽。在家守八關之戒。八阿那經云。二月八日。當行八關之戒。仏經云。在家菩薩。此日當行八關之斎戒▽。云々。

(歲華紀麗¹、二十三四)

初八日。六祖菩薩生。更考其年。乃唐太宗貞觀十二年二月初八也。仏書云。此日亦慶古仏生。十八尊羅漢。亦以此日成道。

(月令採奇¹、八一七二)

宋仁宗幸洪福院。八明道二年二月八日。出會要▽。

(日涉編²、一〇一二九二)

同州。是日為市。四遠村民畢集。其蚕農所用。云々。(以下、2月2日ノ条参照)

(同右、一〇一二九二)

民。貧無紀綱法令。婚姻略同華夏。死亡者皆焚而後葬。其服制滿七日則除之。丈夫並剪髮以為首飾。文字与婆羅國同。二月八日依釈迦行道。四月八日亦然。出魏書列伝▽。

（同右、一〇一二九二）

釈迦佛。於是日明星出時成佛。△釈迦佛。号天人師。住世四十九年。將金縷僧迦黎衣。伝法与摩訶迦葉。出伝灯錄▽。

（同右、一〇一二九二）

釈道安。忽告衆僧曰。吾當去。即日斎畢。無疾而卒。△晉太元元年。先道安問異僧。以來生所生之處。異僧以手虛撥天之西北。即見雲開備觀兜率妙勝之景。出高僧伝▽。

（同右、一〇一三九三）

幸洪福院。又。仁宗。明道二年。云々。

（古今類伝、一四一一三〇）

（マニ）焉耆國。魏書。焉耆國民貧。無紀綱法令。云々。

（同右、一四一一三〇）

山棚帷幕。四川記。同州為市。是日与二日同。

（同右、一四一一三〇）

牟尼生。仏運統紀。周昭王二十四年四月八日。中天竺國。淨梵王妃摩耶氏太子悉達多。二十五歲成道。号釈迦牟尼佛世尊。玄極經。八日仏生。周以子月為正月。莊王九年四月八日。牟尼仏生。是今二月八日也。

（同右、一四一一三〇）

六祖誕。法壇經序。師盧姓。云々。

（同右、一四一一三〇）

兜率妙勝。高僧伝。晋太安元年是日釈道安。云々。

（同右、一四一一三〇）

幸洪福院。宋史。明道二年。云々。

（月令粹編5、一六一二三四）

釈迦佛生。遼史禮志。二月八日為悉達太子生辰。京府及諸州。雕木為像。儀仗百戲導從循城為樂。云々。

（同右、一六一二三五）

行像。仏國記。摩竭提國。年常以建卯月八日行像。作四輪車。縛竹作五層。有承櫨擴戟高二丈余。以白麁纏上。然後彩畫作諸天形像。以金銀琉璃莊校。其上懸繪旛蓋四邊作龜。皆有坐仏。菩薩立侍。此日境內。道俗皆集華香供養。

（同右、一六一二三五）

像現荊州。法苑珠林。永和六年二月八日夜。有像現於荊州城北。長七尺五寸。合光趺高一丈一尺。皆莫測其所從。初廣州商客下載。中夜覺。有人來奔船。驚共尋視了無所見。而船自重。雖駭其異而不測也。及達渚宮纔泊水。次夜復覺。人自然登岸。船載遂輕。及像現方知其兆。

（同右、一六一二三六）

六祖受戒。伝燈錄。邱宗告四衆曰。肉身菩薩即座下盧居士是也。因請出所伝信衣。悉令瞻禮。至正月十五。會諸名德為之

剃髮。二月八日。就法性寺智光律師。受滿分戒。明年二月八

日。忽謂衆曰。吾不願此居。要歸旧隱。時印宗與縕白千余人。

送師歸寶林寺。

(同右、二〇一七三六)

弘經。菩薩。二月八日當行八關之戒。

(同右、二〇一七三六)

荆楚歲時記。二月八日。釀氏下生之日。迦文成道之時。云々。

(月日紀古2上、二〇一七三二)

本相經。弘初為太子。年十九踰城出家。學道勤行。精進禪定。六年成道。具三十二相八十種好。又弘初出家。乃於檀特山中。學非非想。於二月八日明星出時成道。

(月日紀古2上、二〇一七三二)

仁宗。明道二年二月八日。幸洪福院。

(同右、二〇一七三四)

魏書。焉耆國。民貧無紀綱法令。云々。

(同右、二〇一七三四)

仏運統紀。周昭王二十四年四月八日。云々。

(同右、二〇一七三四)

法壇經序。師盧姓。法名惠能。父行瑫。母李氏誕師於貞觀十

二年二月八日子時。後為六祖。

(同右、二〇一七三五)

高僧伝。晉太安元年二月八日。釀道安。云々。

(同右、二〇一七三五)

本願經。二月八日夜半。太子被馬。云々。

匿。釈提桓因執蓋。北門自開。諸天歌讚。至于天曉。行已三
踰闕那。又本行經云。鬼星已与月合。帝釈諸天唱言時至。太
子聞已。以手拔髮令寤。諸天捧馬足出。至聞王內則行城中矣。
故今二月八日。平旦執香行城一匝。蓋起于此。又阿那經云。

二月八日當行八關之戒。文仏經云。在家菩薩。此日當行八關
之斎戒。

（荆楚歲時記、三〇一二三）

八日。觀街樂市。早宴大慈寺之設序。晚宴金繩院。

（歲華紀麗譜、三）

南無光藏法王。白衣妙德觀世音菩薩示現。

（月令採奇1、八一七二）

白衣現。仏經。是日南無光藏法王白衣妙德觀世音菩薩示現。
(古今類伝1、一四一二三二)

仏經。二月九日。南無光藏法王白衣妙德觀世音菩薩示現。
(月日紀古2上、二〇一七四四)

2月10日

無量壽仏。姓周氏。端坐而逝。△母熊氏。產師有摩尼入懷之
北。生而頑面大耳。骨瘠如柴。標姿異人。天性好定。自幼即
出家。嘗從一高僧。觀于海上。高僧謂師曰。苦海如是。師□
然曰。是衆生之所謂苦海。而菩提之所謂性海也。僧驚異之。
後結庵湘山之覆釜山。自称無量壽主。永州刺史韋宙。遣使礼

請。即至四門。各見其□。其靈變如此。不可具述。於咸通八年一月十日端坐而逝。年一百三十二。出彬陽仏伝。
(日涉編2、一〇一二九六)

結茅覆釜。柳陽仏伝。無量師。母熊氏。云々。

（古今類伝1、一四一一三二）

結茅覆釜。柳陽仏伝。無量師。母熊氏。云々。

（月令粹編5、一六一二三八）

郴州志。無量壽仏。姓周氏。郴之程水鄉人。母熊氏。有摩尼
入懷之兆。產師。生而頑面。大耳骨立。姿標異人性好。自幼出
家郡西開元寺。初參徑山道欽禪師。即立禪關。設門扁鑰。止
留一牖。跏趺其中。不間寒暑。天寶末。辭徑山之羅浮。披絰
悟法。得般若彼岸之理。嘗從一高僧觀海。僧戲謂師曰。苦海
無垠如是哉。師蹙然曰。是衆生之所謂苦海。而菩提之所謂性
海也。僧愕然。延師上坐而禮之。一日帰省其母。母以師久別
為具雞黍。師不敢払。母命尽啖之食。竟趣至江濱。出腸洗之。
未幾出遊衡州。過鴈峯寺。寺僧怪其形。不容止宿。師曰。既
不止宿。可借一行僵否。僧嗤之曰。行僵難覓。要泥塑金剛。

吾當奉汝。師即以手指一金剛。倏然倒地。成一健僵。隨師荷
簷而去。衆僧始知。為活仏也。驚追之。師曰。五百年後。吾
當歸鴈峯。爾以一袈裟一偈遺之。至德初。游湘源。遂于湘山剏
淨土院居之。帰依甚衆。会昌初。謂大衆曰。大劫將至。僧當
易衣冠矣。師遂披紫霞衣。頂青崆冠櫛。顧下肉成觴。頂上肉

成髻。蓋預知。武宗欲滅釩教故也。釩氏唐武之阨。縕流無一免者。師獨得全。永州刺史韋宙。遣使迎之。四門各見其入。

及宙出延之。惟見其一。其靈變皆類此。大中時。還淨土庵。

咸平八年二月十日端坐而逝。時世壽一百三十二矣。師真身在湘山。歷代封為慈祐寂照妙應禪師。又號無量壽仏。師有元旦上堂。語伝于世。略曰。往復無際動靜一源。舍有德以還空。越

無私以廻出。昔日月今日月。照無兩明。昔日風今日風。鼓無

兩動。于其中間矣。去來相不可得。何故。自他心起。起處無蹤。自我心忘。忘無滅迹。大衆若向這裏會去。與天地而同根。

共万物為一体。師之宗旨大概如此。初郡中有怪。嘗放毒于鄉

里。師治而服之。怪竟從師為侍者。今人為肖像于師側。号臨武天師。師所生之地。有周源山。鄉人即其地為師建二刹。曰

竈居。曰廣慧。仏母葬竈居寺。後常有雷雨。為之掃墓。墓旁

皆產方竹。可取為杖。距山五里為牛嶺。師嘗結靜室其下。母往省之。有頃母渴。師卓錫得泉。飲之母饑。扣石出饅首以奉。

今泉磚饅模尚存。又郡南万歲山有石。為師坐定處。猶有盤踞

迹存焉。

(月日紀古2上、二〇一七四七)

2月12日

紹興九年二月十二日。詔紹興府天章寺祖宗。御書令守臣取進。先是建炎四年。巡幸江浙。御書凡五百五十卷軸。留於越至是詔取焉。按天章寺即蘭亭也。

2月13日

翰林李國鳳。遊相國寺。見群僧仰面聚觀。國鳳亦從之仰視。見日旁有一月一星。月如初弦。共駭異焉。△元朝於歲首。例遣使祭岳瀆。元順至正己巳年。國鳳代祀時。因兵亂不出城。而望祭嵩岳。二月十三日祭畢。遊相國寺。出輶耕錄▽。

(日涉編2、一〇一三〇四) 日旁星月。輶耕錄。元朝于歲首例遣使祭岳瀆、云々。

(古今類傳1、一四一一三五) 2月15日

仏世尊。以周穆王五十二年二月十五。於俱尸羅大城。婆羅双樹間入涅槃。

(月令採奇1、八一七四)

上元節。△高麗國二月十五日。僧俗燃燈。如中國上元節。出宋史外國伝▽。

(日涉編2、一〇一三一〇)

限是日。私養沙門者送官。過期身死。△司徒崔浩博學多聞。不信仏。謂帝曰。仏氏虛誕。帝以弁博信之會。蓋吳反。杏城

關中搔動。帝乃西伐。至于長安。先是長安沙門種麦。寺內御騶。牧馬于麥中。帝入觀馬。沙門飲從官酒從官入。其便室見大有弓矛楯出。以奏聞帝怒曰。此非沙門所用。當与蓋吳通。謀害人耳。詔曰。有私養沙門者。皆送官曹。不得隱藏。限今

年二月十五日。過期不出沙門身死。密止者誅一門。出魏書釈老志▽

（日涉編2、一〇一三一一）

周穆王。是日暴風忽起。林木傷折。天地震動。西方有白虹十二道。南北通過不滅。穆王問太子扈多曰。是何徵也。對曰。

西方有聖人現耳。是時涅槃。△周昭王二十四年江河泉池忽然汎漲。大地震動。有五色光入貫太微。太史蘇由奏曰。有大聖人生于西方。一千年外。声教及此。昭王即勅鑄石記之。埋于南郊天祠前。至穆王五十二年二月十五日果應。出周書異記▽。

（同右、一〇一三一二）

禁私養沙門。魏書。司徒崔浩不信仏。云々。

（古今類伝1、一四一一三七）

白虹十二道。周書異記。周穆王。云々。

（同右、一四一一三七）

釈迦涅槃。隋書經籍志。釈迦在世教化四十九年。乃至天童人鬼。并來聽法。弟子得道以百千万億數。然後於拘尸那城跋羅双樹間。以二月十五日入般涅槃。涅槃亦言泥洹。訖曰。滅度。亦言。常樂我淨。

（月令粹編、一四一一四三）

燃灯。宋史外傳。高麗國二月十五日。云々。

（同右、一四一一四四）

白傘蓋仏事。元史祭祀志。至元七年。以帝師八思巴之言。於

大明殿御座上。置白傘蓋一頂。用素段泥金。書梵字於其上。謂鎮伏邪魔護安國利。自後每歲二月十五日。於大殿啓建白傘蓋仏事。用諸色儀仗。直迎引傘蓋。周遊皇城内外。云。與衆生祓除不祥。導迎福祉。

（同右、一四一一四四）

周書異記。周穆王二月十五日。暴風忽起。云々。

（月日紀古2下、二一一七八九）

大唐新語。沙門陳玄奘。偃師人。少聰敏有操行。貞觀三年。因疾而挺志。往五天竺國。凡經十七載。至貞觀十九年二月十五日。方到長安。云々。（2月2日ノ条参照）

（同右、二一一七九一）

元史祭祀志。世祖至元七年。以帝師八思巴之言。云々。

（同右、二一一七九七）

周書異記。周昭王二十四年。天竺迦維衛國。淨飯王妃摩耶氏。夢降金人遂有孕。于四月八日太子生。云々。

（同右、二一一七九八）

魏書釈老志。詔曰。彼沙門者。仮西戎虛誕妄生。云々。

（同右、二一一八〇〇）

仲春十五日。（中略）崇新門外長明寺。及諸教院僧尼。建仏涅槃勝會。羅列幡幢。種種香花異果供養。掛名賢書画。設珍異玩具。莊嚴道場。觀者紛集。竟日不絕。

（夢梁錄1、一一a）

二月十五日。（中略）寺院啓涅槃会。談孔雀經。拈香者麌至。
猶遺俗也。

（熙朝樂事、三〇一一）

十九日觀世音菩薩誕。

（月令採奇1、八一七五）

2月16日

十六日曰長春節。觀世音菩薩成道之日。

（月令採奇1、八一七四）

齊竟陵王子良。見仏從東來。△（中略）出天中記▽。（2月8日
ノ条参照）

（日涉編2、一〇一三一五）

觀音成道日。△藏經▽。

（同右、一〇一三一六）

玉稻。天中記。齊竟陵王子良。幼含勝慧。結志隆雲、云々。
(古今類伝1、一四一三九)

詠維摩。法苑珠林。永明七年二月十九日。司徒竟陵文宣王。
夢於仏前詠維摩一契。因声發而寤。即起至仏堂前。還如夢中。
法。更詠古維摩一契。便覺声韻流好。明旦即集沙門僧弁等。
次第作声。

（同右、一六一二五〇）

觀音成道。△藏經▽。

（同右、一四一三九）

玉稻。天中記。齊竟陵王子良。幼含勝慧。結志隆雲、云々。
(月令粹編5、一六一二四六)

羅江縣志。縣北三十里有觀音巖。海逢二月十九日為觀音誕辰。
乞靈報賽畢集聚。此日乃為酬神演劇。其会之大。幾与二月初
三七。曲梓潼会等。蓋綿州第一禪林也。

（月日紀古2下、二二一八一〇）

天中記。齊竟陵王子良。幼含勝慧。結志隆雲、云々。
(月日紀古2下、二二一八一〇)

觀音生日。十九日為觀音誕辰。士女駢集殿庭炷香。或施仏前
長明灯油。以保安康。或供長旛。云求子得子。既生小兒。則
於觀音座下。帰依寄名。可保長寿。僧尼建觀音会。莊嚴道場。
香花供養。婦女自二月朔持齋。至是日止。俗呼觀音素。六月

2月19日

九月朔至十九日。皆如之。△案。張謂宣室志。載唐敬宗時。

厨吏修御膳。烹卵。聞鼎中呼觀音菩薩聲甚淒咽。因罷斥縕徒

之詔。詔郡國。各於精舍塑觀音菩薩象^(マツ)。然未明言男女。今皆

作女人象。法相端嚴。確指為梁妙巖公主得道成佛。并相傳十

九日為觀音誕。六月十九日。為觀音成道之辰。見吳縣舊志▽。

觀音山香市。觀音誕日。有至支硎山朝拜者。望前後。已聯綴

於塗馬鋪橋。迤西乃到山路也。人多賃坐竹輿。資以代步。不

惟不蓋。兩人肩之以行。俗呼觀音山簷子。△案。府志云。府

西二十五里。有支硎山。以山之東趾有觀音寺。故又名觀音山。

長元吳志皆云。二月十九日為觀音誕。支硎山。土女連袂進香。

徐崧張大純百城烟水云。支硎山。俗稱觀音山。三春香市最盛。

黃省吳風錄云。二三月。郡中士女渾聚。至支硎觀音殿。供香

不絕。沈朝初憶江南詞云。蘇州好。二月到支硎。大士焚香開

寶座。小姑聯袂門芳輶。放鶴半山亭▽。

(清嘉錄2、二二八a)

天竺香市。(中略)。二月十九。觀音聖誕。大士最著靈驗。凡

祈晴禱雨。無不感應。雖小兒亦知敬奉。十八日。文武百官自

撫台以下。親往拈香。一切執事。城門口即打落。不敢開鑼喝

道。其敬畏有如此者。百姓有饑會者。均於十八晚間出城。所

以自茅家埠起一路。夜燈至廟不絕。當日去者。自城門至山門十五里中。挨肩擦背。何止万万。坐轎者不必言矣。云々。

十九日。上天竺建觀音會。傾城士女皆往。云々。

(熙朝樂事、三〇一一)

2月20日

蘇子由生。蘇軾十八羅漢頌跋。於海南得十八羅漢像。以授子由弟。使以時修敬遇生日。輒設供以祈年集福。並以前所作頌寄之。子由以二月二十日生。

(月令粹編5、一六一二五一)

2月21日

黃山谷過洞庭。△山谷作承天院記。朝廷謂其幸災謗國。自鄂

謫宜州。時崇寧二年也。次年二月二十一日。過洞庭經潭衡。

至永州遊太平寺。登閣賦詩。宋學士集▽。

(日涉編2、一〇一三二五)

過洞庭。宋學士集。黃山谷作承天院記。云々。

(月令粹編5、一六一二五三)

宋學士集。黃山谷作承天院記。云々。

(月日紀古2下、二二一八四二)

弘書。二月二十一日。普天誕。

(同右、二二一八四二)

西溪叢語。建康保寧寺鳳凰台。有小碑在亭。上五言三十韻詩

一首。後題云。前朝天祐八年二月二十一日題。後唐昇元三年

二月八日。奉勅勒石。崇英殿副□知院事。檢校工部尚書。兼

御史大夫。上柱國王紹顏奉勅書。銀青光祿大夫。兼監察御史

王仁寿鐫。宋治平四年九月望日重墓。上石後數月。一夕風雨。亭頽倒石斷裂。

(同右、二一一八四四)

2月23日

泉涌仏像。法苑珠林。梁安國寺。在株陵縣都同下里。寺有金銅像一軀。以永明九年起造時失去。天監六年二月八日。房主藥王尼住牀前。時時有光照屋。至二十三日。於光處忽有泉涌。見此像隨水而出。遠近駭觀泉。既不竭乃累甌為井。井猶存焉。

(月令粹編5、一六一二五四)

玉海。建隆三年二月二十三日。上幸大相國寺。移幸國子監。

(月日紀古2下、二一一八六二)

2月26日

△東坡。二十六日自磻溪往陽平。憩于麻田青峰寺之下院翠麗亭▽。

(日涉編2、一〇一三三八)

2月28日

二十八日。為老和尚過江。必有風報。若吹南風主旱。△案。范成大吳船錄云。丁巳泊長蘆。襆被宿寺中。此為薩達磨一輩浮渡處。然未嘗指定此日也、云々▽。

(月令粹編5、一六一二五四)

升婬巖。禪宗志。蔣大士江華人。云々。
(古今類傳1、一四一一四六)

升婬巖。禪宗志。蔣大士江華人。云々。

(日涉編2、一〇一三四〇)

蔣大士生。△大士既長。孝父母睦兄弟。日誦金剛經。至徽宗崇寧癸未。豁然頓悟。遂別父母妻子。就浪石寺立壇演法。尽蠲火食。升婬岩趺坐而化。其徒遂於寺立塔。至今真身不壞。大士江華人。於神宗熙寧甲寅年二月二十七日生。禪宗志▽。

永州府志。蔣大士名永雄。江華太平鄉人。宋熙寧甲寅二月二十六日生。居近舜祠。而專奉香火。孝父母睦兄弟。持齋誦經。崇寧癸未五月。豁然頓悟。遂辭父母兼家室。就浪石寺說法。升婬巖趺坐而化。時丙戌五月二十九日也。至今真身不壞。祈禱尤驗。

(月日紀古2下、二一一八八〇)

2月27日

生時。

(月日紀古2下、二一一八九八)

百六日。（中略）。容齋四筆云。吾州城北芝山寺。為禁烟遊賞之地。寺僧建華嚴閣。請予作勸緣疏。其末一聯云。大善知識五十三。永壯人天之仰。寒食清明一百六。鼎來道俗之觀。云々。

（歲時廣記15、五一四五九）

薦亡女。夷堅丁志。紹興末。淮陰小民喪其女。經寒食節。欲作仏事薦嚴。而無資。其母截髮鬻之。得六百錢。出街將尋僧。會有五人過門。迎揖作禮。告其故。皆転相推避。良久一僧始留曰。今日不携經文行。能自往仮借否。婦人訪諸。隣得金光明經一部。以授僧。方展卷啓白。婦人涕淚如雨。僧惻然曰。不謂汝悲痛。若此吾當就市澡浴。以來為汝盡心。既至潔誠。持誦具疏。回向畢乃受錢歸。遇向同行四人者。於茶肆扣其所得。邀與其買酒已就坐。未及舉盃。侶聞窗外有女子。呼聲獨絰。僧起應之。泣曰。我乃彼家亡女也。淪滯冥路已久。適蒙師課經精專之功。遂得超脫閻王。已勅令受生。文符悉具。但未用印耳。師若飲酒破齋。則前功盡棄。實為可惜。能忍俟明日乎。僧大感懼。以語衆。皆悚然而退。

（歲時廣記16、五一五一二）

鶴林玉露。福州啓運宮在開元寺。有七祖御容塑像。乃西京金陵寢之。旧南渡之初。迎奉于此。每歲寒食。朝廷差官一員。望祭每祭。用朱槃列食十品酒獻。

崇聖寺鬼題壁。按漢州崇聖寺。寒食日。忽有朱衣一人紫衣一人。駆殿僕馬極盛。各題絕句於壁而去。失其所在。云々。

（同右、三一九七六）

僧皎然。遙和康錄事李侍御。云々。

（同右、三一九七七）

方千。寒食。宿先天寺無可上人房。云々。

（同右、三一九八二）

僧齊已。寒食。懷寄友人。云々。

（同右、三一九九八）

僧貫休。寒食。云々。

（同右、三一九九八）

僧雲表。寒食日。云々。

（同右、三一九九八）

僧皎然。寒食日。同陸処士行報德寺。宿解公房。云々。

（同右、三一九九九）

寒食前后。西湖內画船布滿。頭尾相接。有若浮橋。（中略）自二月初八日下水。至四月初八方罷。沓渾木。撥湖盆。他郡皆無。節日大船。多是王侯節相府第及朝士賃了。余船方賃市戶。又于賞茶處借坐飲酒。南北高峰諸山寺院僧堂仏殿。游人俱滿。

（西湖老人繁勝錄、八）

寒食出大東門。早宴移忠院。晚宴大慈寺設序。曩時寒食。太守先設酒饌於近郊。祭鬼物之無依者。謂之遙享。後置廣仁院

以葬死。而無主者。乃遣官臨祭之。而民間上塚者。各蟻集於郊外。天禧二年。趙公頤嘗開西樓亭樹。俾士庶遊觀。

(歲華紀麗譜、四)

清明節

清明節。(中略)寒食第三節。即清明日矣。凡新墳皆用此日拝掃。都城人出郊。禁中前半月發宮人車馬朝陵。宗室南班近親。亦分遣詣諸陵墳享祀。從人皆紫衫白絹三角子青行纏。皆係官給。節日。亦禁中出車馬詣奉先寺道者院。祀諸宮人墳。云々。

(東京夢華錄7、三九五b)

東京夢華錄。寒日第三日即清明也。云々。

(歲時廣記17、五十五三二)
僧皎然同顏使君。清明日遊。因送蕭王簿。云々。

(月日紀古3上、二一九三二)
清明。從冬至數至一百五日。即其節也。(中略)僧道採楊桐葉染飯。謂之青精飯。以饋施主。

(熙朝樂事、三〇一一二)

二月
北魏孝昌三年。洛陽平等寺。金身兩目垂淚。遍體俱濕。人稱為仏汗。如此者三日。明年爾朱榮入洛。誅戮百官殆盡。洛陽伽藍記▽。

(日涉編2、一〇一二四九)

3月2日

僧伽大師端坐而終。大師西域人也。俗姓何氏。嘗獨處一室。

汝等何以為社。奉齋守戒。則獲福無量矣。
佛經。世尊見殺牛羊。以為社戒之云。地獄滿塞正坐。殺害。

(月日紀古2上、一〇一六三三)

頂有一穴。恒以絮塞之。夜則去絮。香從頂中出。芬馥異常。及燒香頂中。又以絮塞之。師嘗濯足。人取其水飲之。痼疾頓愈。唐中宗語師曰。京師無雨。師取瓶水灑之。俄頃甘雨大降。至景龍四年三月二日。於長安薦福寺端坐而終。中宗即令薦福寺起塔。漆身供養。俄而臭氣滿長安。近臣奏曰。師欲在臨淮。故長安臭。中宗心許之。其臭頓息。奇香遍長安。即送臨淮。出紀聞錄▽。

（日涉編³、一一一三八八）

僧伽。紀聞錄。僧伽師西域人也。云々。

（古今類伝¹、一四一一五二）

韓愈。送僧澄觀。李邕泗州普光王寺碑。僧伽者。竇朔中西來。

嘗縱觀臨淮。發念置寺。既成中宗賜名普光王寺。以景龍四年三月二日示寂於京。後澄觀建僧伽塔。於泗州浮屠。云々。

（月日紀古³中、二二一〇七二）

陸游。三月二日。西湖春遊。靈隱前天竺後。鬼削神剜作岩岫。冷泉亭中一樽酒。一日可敵千年壽。云々。

（同右、二二一〇七四）

3月3日

遊山陰。法書要錄。

晋穆帝永和九年暮春三月三日。嘗遊山陰。

与太原。孫統承公。孫綽興公。廣漢王彬之道生。陳郡謝安石。高平郗曇重熙。太原王蘊叔仁。祚支遁道林。王逸少子凝徵操

之等四十有一人。修禊禊之禮。揮毫製序。興樂而書。用蚕紙。寧寺。登浮岡絕頂。祝天曰。妾本河南名家。夫死不敢失節。

鼠鬚筆。遒媚勁健絕代。更無凡。二十八行三百十四字。字有重者。皆構別體。就中之字最多。

（歲時廣記¹⁸、五一五七六）

訪東山。東坡志林。黃州定慧院東小山上。有海棠一株。每歲盛開時。必為置酒。已五醉其下矣。今年復與參寥及二三子訪焉。則園已易主。主雖市井人。然以余故稍加培治。山上多老枳。木花白而円香色。皆不凡。以余故亦得不伐。既飲憩于尚氏之第。竹林花木皆可喜。醉臥閣上。稍醒聞。坐客崔成老。彈雷琴作悲風。曉角鏗鏘。然意謂非人間也。晚乃步出城東。入何氏竹園。置酒竹陰下。興盡乃徑歸。元豐七年三月三日也。

先生輒作數句云云。

（同右、五十五八〇）

初三日。（中略）。南無西來僧伽大聖觀世音菩薩示現。

（月令採奇¹、八一九六）

穆帝永平九年三月三日。王羲之與孫統等。會飲於會稽之蘭亭。以脩禊事。

（同右、八一九六）

蚕繭鼠鬚。又王羲之與太原孫統等四十一人。云々。

（古今類伝¹、一四一一五二）

浮岡投地。河南府志。齊閼慮募為千夫。長戰死。妻守節。有強議婚者。妻給曰。吾三月三日。有心願償。是日徑往彰德天寧寺。登浮岡絕頂。祝天曰。妾本河南名家。夫死不敢失節。

投地而死。

(同右、一四一一五五)

令就薦福寺。漆身起塔。忽臭氣滿城。帝祝送師歸臨淮。其臭頓息。奇香遍繞。即送臨淮。

西來現。仏經。是日南無唐西來僧伽大聖觀世音菩薩示現。

(同右、一四一一五五)

(月日紀古3中、二一一一〇二)

婆羅門。譬喻經。舍衛城東。有一婆羅門大富。夫婦誓言施。

若有福者。當使天下人共見之。然後國俗三月三日。舉國人民。

皆至水上作樂。忽東南角。有一天人。騎白馬乘空而過。須臾復見七寶宮殿。有一玉女獨坐其上。四大天人接殿飛行。俄而復見大七寶殿。一天人一女共坐其中。前後妓樂十二天人。共接其殿。衆人問之。知為布施之家。

(同右、一四一一五六)

萬善壇。禪志。杭州昭慶寺萬善戒壇。每歲上巳。律僧登壇說法。雲水縉林托鉢。受戒者千百。鉅室富賈施金錢。計亦稱是。

(同右、一四一一五六)

得寶誌。統文獻通考。寶誌金城人。初朱氏婦於上巳日。聞兒啼鷹巢中。梯樹得之。挾以為子。七歲出家。長修禪業。止江東道林寺。

(月令粹編6、一六一二七七)

西來現。仏經。三月三日。南無唐西來僧伽大聖觀世音菩薩示現。

(同右、一六一二七九)

伝燈錄。泗州僧伽大師。景竜四年三月二日示寂。三日。帝勅

3月6日

初六日。南無清淨海衆山月面吉祥示現。

(月令採奇1、八十九七)

吉祥現。仏經。最日南無清淨海衆山月面吉祥觀世音菩薩示現。

(古今類伝1、一四一—六三)

吉祥現。^(アマ)道經。三月六日。清淨真人同海山月面吉祥觀世音菩薩示現。

(月令粹編6、一六一二八三)

仏經。三月六日。南無清淨海衆山月面吉祥觀世音菩薩示現。

(月日紀古3中、二一一—二一五)

3月7日

夢詩公案。志林。崇寧元年元日粥罷。昏睡夢中。忽作一詩。既覺輒能記之曰。無賴東風試怒号。共乘一葉傲驚濤。不知兩岸人皆愕。但覺中流笑語高。三月七日。与瑩中濟湘江。是日大風當斷渡。瑩中必欲宿道林。小舟掀舞向浪中。兩岸聚觀胆落。而瑩中笑聲愈高。余細細夢中詩以告瑩中。瑩中曰。此段公案。三十年後大行叢林也。

(月日紀古3中、二一一—二三一)

3月11日

唐沙門彥悰。後画錄。彥悰為帝京寺錄。因觀在京名迹。其中優劣差降甚有不同。若曹姚之徒。已標前錄。張謝之伍題之繞品。沙門之内。棄其數人。但非釈氏所宜。故闕而不錄。都合二十七人。名曰後画錄。如鄭法輪。太常。成嵩。尹伯。千長。隋煬帝徵師不赴。麟德元年遊終南山石壁。因止焉。唐高宗亦通竺。元標等。雖行於代。未日名家。若茲之流似侯來哲時。

3月8日

僧慧安偃身而寂。△慧安。荊州枝江人。姓衛氏。遁于山谷為僧。隋煬帝徵師不赴。麟德元年遊終南山石壁。因止焉。唐高宗亦

徵。師不奉詔。武后徵。至輦下待。以師禮。后問。甲子多少。師曰。不記。后曰。何不記耶。師曰。生死之身。其若循環。^(環カ)無起盡。焉用記為況。此心流注中間無間。見漚起滅者。乃妄想耳。從初識至動相滅時。亦只如此。何年月而可記乎。后聞稽頗信受。神龍五年三月八日。閉戶偃身而寂。春秋一百二十八。出楚通志▽。

(日涉編3、一一一四一八)

梵僧法賢卒。△宋真宗咸平三年卒。謚慧弁。出事物起原▽。

(同右、一一一四一八)

日聞錄。元初。杭城每歲三月初八日迎仏會。有一土人建言。欲援例迎夫子。事上有司申省。送江浙儒司定議。省典傳景文作詞云。省府相度。當為不為。與不当為而為。皆非聖人之道。孔子之教。垂憲万世。今杭州路申前事件。仰速送江浙儒司。攷覆典故。稽諸經史。可以施之於今。行之於後。無愧于古保結連呈。

貞觀九年春三月十有一日序。

(月日紀古3中、二一一二六〇)

繞書畫題跋記。余嘗遊匡山至虎溪。未入東林寺。首見一亭扁曰三笑。因問其謂。晉遠師與淵明陸修靜。且語且別。握手相忘。遂犯送客不過虎溪之戒。乃相顧各掀髯而去。今觀李唐虎溪三笑圖。千載遺風具存。人生不与路。為譬二三子。何哂之有。紹興庚午季春十一日陳壽題。

3月13日

十三日。天香山觀世音示現。

(月令採奇1、八一九七)

妙香現。是日南無天香山妙香觀世音菩薩示現。

(古今類伝1、一四一一七〇)

仏書。三月十三日。南無天香山妙香觀世音菩薩示現。

(月日紀古3中、二一一二七九)

3月15日

仏出世。△仏以三月十五夜出世。二十九出家。三十五得道。出繞博物志▽。

(日涉編3、一一一四三七)

3月19日

仏出世。繞博物志。仏以是日出世。

(古今類傳1、一四一一七二)

江西通志。明雪。桐城楊氏子。九華聚龍庵薙髮。往雲棲受具。參雲門澄禪師。聞鐘聲大徹。後隱贛州之崆峒。建安王請住百

(月日紀古3下、二二一一二九二)

繞書畫題跋記。米公元暉。昔遊徑塢△暉亭。攬山青白雲樹色水光之勝。悟得毫端三昧為鄭王。楊吳董宋郭范群公擅長。初聞是說。實訝之。元貞丙子春。予寓山中禪余。偕二三友。縱步是亭目擊真態。亦有感發。乃信元暉悟是。而得天巧非浪說也。大德癸卯至今癸酉。逾三十年。每想旧游之樂。不可復追為之感慨。適又三月十五日。姑胥良禪人。出示郭公天錫所作。亂山隱秀。輕雲抹淡。矮屋藏林。短橋橫澗。朝曦夕靄。千狀萬貌。把玩至再不覺宿。懷一時脫。焉恍如身。臨亭際神遊物表。殆不知。人為耶天就耶。抑郭得於米耶。米得於天耶。善毫素者弁之。庶幾吾言得之矣。鶴林釀契了。

(同右、二二一一二九二)

3月18日

三祖受具。伝灯錄。有一居士。年踰四十。不言名氏。聿來設禮。而問慧可大師。師深器之。即為剃髮云。是吾寶也。宜名僧璨。其年三月十八日。於光福寺受具。大師乃告曰。達摩菩提遠自竺乾。以正法眼藏密付于吾。吾今授汝達摩信衣。汝當守護無令斷絕。

(月令粹編6、一六一二九七)

丈入院。整清規。時復荷鉢与作務。人俱謂。大智再来也。崇禎辛巳三月十九日遲明。起浴手書偈曰。來亦無物。去亦無物。若知端的意。百丈花梢月。擲筆而逝。

（月日紀古3、二二一一三三六）

宣室志。宣城郡當塗民劉成季雲、云々。

3月21日

海雲摸石。歲華紀麗譜。三月二十一日。出大東門宴海雲山鴻慶寺、云々。

（月令粹編6、一六一三〇一）

歲華紀麗。三月二十一日。出大東門。宴海雲山鴻慶寺、云々。

（月日紀古3、二二一一三四七）

二十一日。出大東門。宴海雲山鴻慶寺。登衆春閣觀摸石。蓋開元二十三年。靈智禪師以是日帰寂。邦人敬之。入山遊礼。

因而成俗。山有小池。士女探石其中。以占求子之祥。既又晚宴于大慈寺之設厅。

（歲華紀麗譜、四）

3月21日

魚仏声。宣室志。宣城郡當塗民劉成李惲。嘗載魚吳越間。天寶三載三月二十二日。自新安江往丹陽郡。行至查浦。是日泊舟江畔。忽聞舫中連呼弥陀。声甚厲驚。視一大魚。振鬚搖手。作呼仏声。因放群魚於江。明日得縉十五千。題于舫曰。還女。值二人奇之。是日尽以施僧焉。

（月令粹編、6、一六一三〇二）

董復園集。燕都天寧寺。隋時建。唐名天玉。明正統乃改天寧。

年譜。東坡年三十七。在杭州通判。是歲有杜丹記。其序云。熙寧五年三月二十二日。余從太守沈公。觀花於吉祥寺、云々。
（月日紀古3下、二二一一三六六）

3月23日

蘇軾。杭州從太守沈公。觀花於吉祥寺。僧守璘之圃。圃中花千本。酒醉樂作。州人大集。金槃綵籃。以獻于坐者。五十有三人。素不飲者皆醉。自輿台皂隸。皆挿花。以從觀者數万人。
△宋神宗熙寧五年三月二十三日。出牡丹記▽。

吉祥寺觀花。蘇軾牡丹說序。熙寧五年。云々。

（月令粹編6、一六一三〇三）

牡丹記。宋神宗熙寧五年。云々。

（月日紀古3下、二二一一三七三）

3月27日

二十七日。大西門睿聖夫人廟前蚕市。初在小市。橘田公以禱雨而應。移於廟前。太守先詣諸廟奠拜。宴于衆淨寺。晚宴大智院。

（歲華紀麗譜、三）

尋藏舍利。四周綴鐸万數。(マツ)鳳作音無斷際。僧云。音歛則光現。嘉靖庚戌三月二十八日。婁東王世貞見之。塔倒影在大士殿。日中闔門。則全現石上。

(月日紀古3下、二二一一四〇八)

武林梵志。北澗居簡禪師。幼見仏書。必端坐默觀如宿習。淳祐丙午年三月二十八日。索紙書偈曰。吾世緣余兩日耳。至期浴罷臥寐而逝。年三十有三。

(同右、二二一一四〇九)

3月29日

赤光照塔。統文獻通考。法楷青州人。仁壽置塔。奉勅送舍利於曹州。見仏半身白面如玉。舍利輦前。仏頂之上黃赤花起。三月二十九日夜降甘露。赤光流照達於塔所。屢有花木樓台著見。楷具列聞。帝大悅。令繪圖示海外。

(月令粹編6、一六一三〇八)

3月30日

題慈恩寺。唐詩紀事。三月晦日。白居易別徵之于澧上。後于慈恩寺題詩。

(月令粹編6、一六一三〇九)

白居易。酬元員外。三月三十日。慈恩寺相憶見寄帳。云々。

(月日紀古3下、二二一一四二五)